

平成 26 年度

事業所名 : グループホーム平泉

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372600262		
法人名	株式会社シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム平泉		
所在地	岩手県西磐井郡平泉町平泉字日照田133-2		
自己評価作成日	平成26年9月28日	評価結果市町村受理日	平成27年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivovocCd=0372600262-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 26年 10月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭に居る時と同じように毎日入浴できるような配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周辺には農村風景が広がり四季の移り変わりが実感できる自然環境の中にある。「家庭と同じような暮らし方の支援」を方針として、一人ひとりの生活リズムを尊重し、気配りし見守りながら「今日もよがったな～」と思われるような支援をしている。楽しみの一つである食事を大切にしており季節を感じる食材を取り入れ、食器にも変化をつけている。職員と利用者手作りの暖簾や手芸作品を所要所に飾り暖かみのある雰囲気づくりをしている。職員の交替や欠員が解消され定着しつつある中で落ち着いた生活と和やかな雰囲気が取り戻され、利用者の表情も明るく笑顔が見られる。今後一層本部との連携強化を図り、職員が向上心を持って働けるような環境づくりとサービスの質の確保、向上に向けて取り組んでいきたいとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム平泉

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を共有スペースの壁に掲げ、常に念頭においている。	人と人との繋がりを大切に！との理念を共有スペースに掲示しており、職員は態度・言葉とも同じ目線で接しながら利用者に「今日もいがあったナァ！」と思われるような実践ができてきているかをケア会議で話し合い検討しながら実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域住民の代表者に出席していただき、情報交換を行っている。	地域のひとと挨拶を交わしたり近隣の農家から時々野菜の差し入れがある。災害時の協力依頼や行事への参加ができていないので、今後、災害時を含め地域住民との協力体制を確立しながら交流の機会を多くしたいとしている。	地域の代表者を運営委員に委嘱し情報を載しているが近隣住民との付き合いが疎遠ぎみとしている。災害時の協力依頼も勘案して今後行事への参加やお茶のみを呼びかけるなど日常的交流がなされることを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に対する勉強会は実践できていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1度開催し、地域住民の代表者、地域包括支援センターの職員、家族と意見交換しサービスの向上に努めている。秋には運営推進会議後、芋の子会を開催している。	行政区長や民生委員の地域代表・家族代表者などを委嘱し隔月開催しホームの現状を話し合い意見をj得ているが、具体的な運営上の課題を話し合うまでに至らず出席率も低いとしている。	他事業所の事例を参考にしながら、事業所の取り組み内容や災害時における地域との協力体制づくりについてなどの課題を話し合い、意見をもらうなど有意義な会議となるよう取り組まれたたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと随時、連絡をとっているが、実現したケースがない。	利用者の出身住所地は広域にわたり地元の出身者は少ないが包括支援センターとの連携は良く図られている。対応困難な事例では保健センターや町と話し合いを重ねており話し易い関係にある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。日中は施錠せず、安全のためにセンサーを使用している。安全面のために夜間のみ施錠し、見回りに重点をおいている。	身体拘束の禁止項目は言葉による拘束も含めて職員は理解しており拘束のない支援に努めている。ヒヤリハットは原因について送り検討しながら情報を共有し繰り返さないよう努めている。特に夜間のペット柵の取り付けには留意している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の無いよう注意し、防止に努めている。勉強会は実践できていない。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の資料の読み合わせをしているが、理解できておらず、活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族からの要望、不安な点、尋ねられた内容について納得を得られるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも相談できる場を提供し、その内容を運営や日常のケアに反映している。	利用者の生活の様子を便りとして毎月定期的に報告している。家族からは面会時や電話で、本人からは日々の支援のなかで相談・意見を聴いており、部屋替え、アレルギーへの配慮、テーブルの配置替えなどを実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は管理者を通じ運営者に会議の際、報告・相談している。また、その内容によっては改善できる点は改善に努めている。	職員会議や日々の会話から意見・提言を聴いてホーム内で解決できない課題は毎月開催される本部長会議に提案している。備品・収納スペースのハード面や職員のモチベーションを高めるための研修や待遇面について課題・希望を伝えて反映させるように努めている。	利用者のサービス向上には職員のモチベーションが大切であり、日々新たな知識・情報を得られるよう職員が研修に参加できる機会が更に多くなることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通じ、代表者へと職員の状況を報告している。必要な環境設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の勉強会が不足している。法人内での学びの場がない。外部研修への参加が出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・地区のグループホーム協会の定例会等の同業者との交流の場はあるが、参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメント時、利用者と家族の話をよく聞くようにしている。また、事業所を見学していただいたり、家庭や利用中のサービス事業所を訪問し、情報交換に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント、訪問調査時によく聞き、不安が軽減できるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を知るように努めている。また、利用中のサービスがある場合はそこから情報をいただくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の立場になりケアするよう努めている。日常のコミュニケーションを通じ、関係作りに努めている。会議の中で、個別にケアの必要性を話し合い、取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換はこまめに行っている。また、面会や通院時、状況相談し利用者が安心してサービスを受けられるよう配慮している。毎月、家族へ手紙を出し、1か月の状況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会、外出、外泊できるようになっている。家族の希望があれば、家族も事業所に宿泊できるようになっている。	家族や親せきが定期的に訪れたり、敬老会への参加やお盆の墓参り・家族との外出に出かけている。また、食材の買物同行や訪問理髪店主との関係など新たな馴染みが継続出来るような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	より良い関係を築けるよう、食事の席を工夫している。また、居室で一人での無きよう、声掛けし他利用者や職員と一緒に過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話を通じて希望、意向を把握できるよう努めている。	日常的には食事や入浴時・個室での会話を通じて、また毎月「お茶会」として自由に話し合う場面を設けて意向を引き出し申し送りノートに記録し共有している。無口・難聴ぎみの方は表情やしぐさから希望や意向を推し図るように努め職員で検討して支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、訪問調査時に日々のケアについて本人や家族から話を聞き、同じような環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送りノートを通じ一人ひとりの状況把握つ努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点は会議等で職員間で話し合いケアに生かすように心がけている。また、本人や家族の要望をよく聞き計画に取り入れている。	業務日誌・申し送り事項・家族の希望を参考に計画作成担当者が原案を作成し、職員会議で検討して介護計画を作成している。状況に変化がある場合はその都度検討しながら現状に即した計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録をとり、プラン作成や情報の共有に努めている。利用者の状況に合わせた記録方法をとるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化、本人や家族の要望に応じサービスの提供、変更を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力・指導の下、定期的に避難訓練、防災訓練を実施している。訓練には利用者也参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人のかかりつけ医の受診を基本としている。	かかりつけ医は在宅時からの継続が多く受診は家族対応となっており、受診時にはホームでの状況をメモや電話で情報提供している。緊急時や薬の調整が必要な場合は職員が同行し、家族とは診察結果の情報は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は事業所に配置していない。基本的には家族対応で通院しており、通院時に職員が家族に状況報告・通院時に必要な記録を渡し、医師や看護師に伝えていただくよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に家族や医療機関と事業所間で情報交換に努め、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際、家族と話し合うと共に、医療機関からケアに対するアドバイス等をいただき対応している。終末期ケアは実践していない。	事業所での対応可能な範囲を十分に説明し話し合いながら医療・他施設を紹介している。重度化した利用者の他施設との連携調整間のケアはかかりつけ医や医療関係者の助言を得ながら支援しているが、職員の介護の知識・技術の再研修が必要としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度救命救急訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に非難訓練、防災訓練を実施し、消防署から指導をいただいている。地域との協力体制はできていない。	春・秋の2回、定期的に消防署の指導の下に避難訓練を行っている。夜間想定や職員連絡網を含めた通報訓練、地震時の対応にも取り組み、3日分の食糧のほかヘルメット、灯り、ラジオなどの備品も準備している。地域の協力体制づくりについては今後の課題としている。	利用者の夜間を含めた安全と安心の確保は災害発生と時間が課題であり、職員のみならず近隣地域住民の力が大きいと思われるので協力体制が確立されることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、不快な思いをさせないよう声掛けを行うよう配慮している。	利用者の誇りを尊重し、命令的な言葉づかいはしないことや職員自身が「嫌だ」と思うことは行わないことを申し合わせて支援している。排泄・入浴時の羞恥心にも配慮し居室でくつろいでいる時間帯は特に声かけの仕方に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴えに耳を傾け、日常会話等の中から要望を聞き出すよう努めている。本人が自己決定できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、生活できるよう努めている。職員のペースでケアしないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の要望に沿って支援している。地域の床屋さんに訪問していただいて散髪していただいたり、こちらから、お店へ出向いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みをメニューに取り入れている。嫌いな食品や摂食禁止の食品に対して、代替食にて対応している。準備・後片付けを手伝っていただいている。	利用者の嗜好や旬の食材に配慮しながら職員が交代で準備している。買い物・後片付けはその日の希望や持てる力を活かしながら共に取り組んでいる。外食で雰囲気を変えたり折り込みチラシ弁当から選んで取り寄せるなど場所や形態の変化も楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に合わせて、量を調整している。食事、水分の摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、歯磨き、義歯の手入れの声掛け・介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前後に排泄の声掛け・誘導を行っている。介護記録をもとに個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導、声掛け・介助を行っている。	一人ひとりの排泄記録をもとに、声掛け・トイレ誘導を行いトイレでの自力排泄ができるようにしている。下剤に頼らない支援や夜間はトイレ誘導照明に配慮するなど、利用者の持てる力を最大限活かすよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、水分補給、運動に努めている。出来るだけトイレでの排泄を促すため、オムツ着用者もトイレに座っていただいている。食事のメニューに乳製品を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制にしている。本人のペースで入浴できるよう可能な限り時間帯を調整している。	入浴は毎日出来る体制にしているが週3回程度の頻度となっている。浴槽の高さは低めで車イス利用者が自力で入浴することも可能となっている。体調に考慮して足浴・清拭も対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースで居眠りされている利用者がいた際、居室で休むよう声掛けを行っている。また、寝過ぎないように声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が変更となった際、薬の説明書の内容を全職員が把握するよう、申し送りノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味を楽しめるよう支援している。掃除、食器拭き、洗濯物たたみ等を職員と一緒に出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の中に外食やドライブを取り入れるようにしている。床屋や買い物に職員と一緒に出掛けている。	介護度の高い利用者が多く体調を考慮しながら、桜・あじさい・あやめ・紅葉等々四季を肌で感じることができるようにドライブを兼ねてお花をめでる機会をつくっている。ショッピングセンターや理髪店に出かけたり外食を計画するなど家族の協力を得ながら努めて外出できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解の下、多くない金額のお金を所持できるようにしているが、所持している方は居ない。お金を使う機会が無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時に電話をかけられるようにしている。電話がかかってくるに対応している。手紙のやり取りはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、廊下にソファや椅子を置いてくつろげるようにしている。	日当たりのよいリビングにはテーブルが置かれ畳敷の小上がりには掘こたつがある。こたつでテレビを見たり、居室のそばに置かれたソファで景色を眺めながら会話を楽しんだりうたた寝をしている利用者もいて思い思いの場所でゆったりくつろげる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士と一緒に過ごせるよう、共有スペースの席を工夫している。また、一人で過ごしたい利用者がいた際は、ある程度の距離をおきながら見守りしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は本人が自宅で使い慣れた物を持ち込んでいただけるようにしている。本人の状況に合わせ、介護用ベッドを導入したり、床に畳やござを敷いて布団で休んでいただいている。	家具・寝具は自宅で使い慣れたものを持ち込み在宅時の習慣でベット・和室風生活と利用者の希望の居室としている。家族の写真や職員手づくりの手芸作品が飾られ窓外の田園風景を眺めながら居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ること、やりたいことはやっていただいている。職員が見守りを行いながら、混乱や失敗を防ぎながら対応している。建物がバリアフリーになっている。		